



図3-2-1. 重要な幹線等位置図 (S=1/35,000)

凡例	
記号	名称
●	大規模避難所(指定避難所)
○	小規模避難所(指定避難所)
●	その他避難所
—	特に重要な幹線等
—	重要な幹線等
—	緊急輸送路
—	その他路線

2) 被害規模のランク設定

被害規模のランク設定時は口径の大きい管が少ないため、機能上重要な施設、社会的な影響が大きな施設として「特に重要な幹線等」と「その他の重要な幹線等」に重きをおき、「その他の路線」については異状発生時の被害の大きさ、事故発生時の対応の困難さを考慮し、口径の大きい管のリスクを高く評価した。

被害規模のランク設定を表 3-2-4 に示す。

表 3-2-4. 被害規模のランク設定

施設	影響度のランク	スパン数	延長 (m)	延長割合
地震対策上特に重要な幹線等	4	1,482	39,145.53	11.00%
その他の地震対策上重要な幹線	3	934	24,110.79	7.00%
その他の路線 (管径φ800mm以上)	2 [※]	93	3,747.89	1.00%
その他の路線 (管径φ800mm未満)	1	14,730	299,855.23	81.00%
計	-	17,239	366,859.44	100.00%

※中大口径管 (作業員が入ることが可能な管径φ800mm以上) を基準とし、影響度のランクを2とした。

図 3-2-2 に被害規模ランク図を示す。